

# 三和区宮崎新田の産業廃棄物の実態調査請願、一票差で不採択に

## 「産廃が雨ざらし状態。黒い水も出て不安を感じている」と住民団体が訴え

三和区宮崎新田地内にある産業廃棄物中間処理施設跡地の産業廃棄物の調査などをしてほしいという請願が市内の2つの団体から提出され、3日の厚生常任委員会では「三和の水とみどり」を育てる会と「住民自治と合併問題を考える会」です。審査の結果、どちらの請願も採択に賛成は私を含めて3人、採択に反対が4人で、1票差で不採択となってしまいました。残念です。

審査の前に請願者である2つの団体代表から口頭で趣旨説明がありました。

このうち、「三和の水とみどり」を育てる会「事務局長の前山忠さ



ん(写真左上)は、「宮崎新田地内の産廃問題は三和区一区の問題ではなく、全市の問題だ。23年経過するなかで、いまだに8000㎡が雨ざらし状態だ。黒い水も出ていて、住民として不安を感じている。一刻の猶予もできない。完全撤去に向けて、産廃の量や内容物の確認、土壌のダイオキシン検査などを第三者立ち会いのもとにやってほしい。そのための調査費を来年度予算に計上してほしい」と訴えました。

「住民自治と合併問題を考える会」の佐藤忠治会長(写真左下)も、「先日、現地を視察したがうっそうとした草やぶに腐臭が漂い、足元には腐った木くずや変色した金

属片が散らかっていた。誰もがこのまま放置してはいけないうと思うはずだ。本件の核心は、最終処分場でもない市有地に、大量の産業廃棄物が違法に放置されていることだ。局面を打開し、解決を図るためには政治の力を借りるしかない」と判断し、調査費の計上と撤去費用の基金積み立てを「お願いしたい」とのべました。

採決を前にした各委員の意見表明では、「住民自治と合併問題を考える会」の請願に関して、「住民団体と行政の間でこう着状態が続いているなか、まずは第三者立ち会いの下で調査を行い、一歩前に踏み出すべきだ(橋爪)」、「違法なものには違法、救済すべきは救済しなければならぬ(中川)などという賛成意見と、「第一義的には県に責任がある。市が率先してやるべきことではない(塚田)」、「市は水質調査をやっているが、異常は見つかっていない。みなさんに迷惑をかける事態が出た段階で対応すべきだ(飯塚)などという反対意見に別れました。

今後、この問題は住民運動が大きく発展していきそうだと感じました。私も応援します。



先月28日、わが家の近くでヒメオドリコソウがいくつか花をつけているのを確認しました。小春日和を本当の春と勘違いしたのでしょうか、びっくりしました。

## 最低制限価格と同額で落札、53件も

ガス水道本支管工事の入札状況がこのほど明らかにされました。ガス水道局が入札発注方式を見直してからのデータです。

それによると、最低制限価格と同額で落札した入札が53件になりました。そのうち、抽選により落札者を決定したケースが30件にもなったということです。落札率は単純平均で90.97%。昨年4月から12月までの指名競争入札よりも3.53ポイントも低くなっているそうです。

これらの結果については一部の業者から疑問の声も寄せられており、党議員団でも質問します。

【ヒメジョオン】キク科の一年草。漢字で、「姫女苑」と書きます。花期は初夏から秋ですが、草刈りの後に育ったものなので、11月下旬に咲いていました。北アメリカ原産の外来種で、在来種の生育を阻害することから要注意外来種の1つになっています。花自体は素朴で清楚な感じがします。(浦川原区長走にて撮影)

# はしづめ法一の活動レポート

**No.1685 2014.12.7**  
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
 Tel 025-548-3628 吉川有線 4867  
 通じないときは 090-5392-1961  
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見え方」はこちら

橋爪法一 検索

# 春よ来い

## 第三三四回

### チョウチ

言葉って、おもしろいですね。もう何十年も使っていないのに、突然、口から出てくるのですから。

先日、直江津の石橋にある食堂で定食を食べて、三人の女性とおしゃべりを楽しんでいる時でした。旧源小学校水源分校への通学路がどこをどう通っていたかの話になり、「チョウチの杉林を通過して『いずみや』（屋号）の脇に出た」と私が言ったところ、一緒にいた人たちがいっせいに、「チョウチかあ、なつかしいねえ」と言いました。チョウチというのは地名です。私も自分で言いながら、突如、この言葉を使ったことに驚いたくらいです。

この日は午前中に会議があつたのですが、十一時半頃には終わったので、いつもよりも早い時間帯に食堂へと出かけました。入り口のドアを開けて、食堂の中に入った時にすぐ目に入ったのは食事をしているハナコさんの姿でした。大きな目をして、私の顔を見てびっくりしています。ハナコさんの隣には、「よごべ」（屋号）のカズコさんがいて、その横には「となり」（屋号）のミヨコさんの姿もありました。

「あら、知らん人ばっかだね」と声をかけると、「おまん、どうしなつたが」と訊かれました。お昼休みの時間ではないので、市役所から離れた食堂に何か別の用事でもあつたのだろうと思つたのでしうね。「おれ、お昼は時どき、ここんちにお世話になつてるの。でも、きょうのような時間には来ないけどさ」と答えました。

三人の女性は現在、市内各地にばらばらに住んでいます。いずれも吉川区尾神の出身です。それに食堂を切り盛りしているセイコさんも、私もそう。それにしても、まさか食堂でこんなふうに出会ふとは……。もし、会議がもう少し遅くまで続いていれば、この食堂には行かなかつたでしょうから幸運な再会でした。

さて、分校時代の通学路について話を戻しましょう。当時、わが家は同じ尾神地内であつても、標高が低い蛸場という小字にありました。蛸場は「ほたるば」または「ほとろば」と読みます。そこに八軒の家が集まっていました。近くに釜平川という小さな川があります。蛸場の子どもたちは水源分校まで約一キロの距離を歩いて通いました。

蛸場のほぼ中心部から幅が二倍あるかなしかの狭い道が高い方に伸びていました。それが私たちの通学路だったので。最初は急な坂道になつていて、砂利ひとつ敷いてない「べと道」でした。途中、林の中を掘り割つて道がつくられたところでは、岩肌が出ているところがあり、よく滑つて転びました。

通学路のほぼ真ん中にあたる場所が通称「チョウチ」と呼ばれた場所でした。近くには田んぼや畑があり、尾神で三番以内に入る立派な杉林がありました。そして、陽のあたる南側には大きな梨の木が一本ありました。食べ物に不自由していた時代でしたから、この梨の木への関心は高く、「いつ食べられるようになるか」を近くに住む子どもたちはみんな考えていました。というわけでチョウチは、そこで遊んだことのある人間にとつては忘れ難い場所だったので。

食堂に集まつた尾神出身の人たちは、食事が終わつてからもコーヒーをいただきながら、「子どもの時には尾神のしだれ桜に気付かなかつた」とか、「山菜採りに行つたら、だれだれに叱られた」などと時の経つのを忘れて懐かしい話を続けました。

チョウチ。この日はこの地名を使ったことにより、幼少年時代を過ごしたふるさとが自分の心の中でいかに大きな存在であるかを改めて知る機会となりました。

# 花が生まれ変わって、より美しく

先月29日、吉川コミュニティプラザで開催された押し花展を観てきました。会場となつた3階大会議室は花と人でいっぱいでした。

同所での押し花展を観るのは今回で2度目、今回も押し花教室のメンバーが工夫を凝らした作品に惹きつけられました。光との組み合わせで、なまめかしい花をつくりだしたり、草花を分解して美しい風景を生み出したりして、押し花によって花をより美しくした作品は見事としか言いようがありません。

指導にあたつておられる奥田先生からは作品について説明していただくとともに、キッコウハグマなど野の花のことで話をすることができました。いつか押し花で「花さき山」を作りたいです。



## 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月26日(水)	12月3日(水)
上越南消防署	0.040	0.036
上越北消防署	0.057	0.057
新井消防署	0.043	0.050
頸北消防署	0.063	0.053
頸南消防署	0.037	0.047
東頸消防署	0.050	0.050
高士分遣所	0.053	0.043
名立分遣所	0.053	0.047